

アジア研究・対アジア関係に関する分科会（第24期・第3回）議事要旨

日時：2018年9月14日（金）14：00～16：00

会場：日本学術会議6-A（2）会議室

出席者

栗田 禎子、井手誠之輔、川島 真、貴志 俊彦、久保 亨、小島 毅、斎藤 明、坂井 俊樹、高見澤 磨、中村 元哉、芳賀 満、水羽 信男、桃木 至朗、吉澤誠一郎

議事要旨

- （1） 前回議事要旨を確認した。
- （2） 今後の審議計画について討議した。

前回に引き続き、分科会幹事会（4月15日）での議論に基く形で、若手研究者の海外留学支援問題につき、川島委員から問題提起と主要な論点の提示があった。若干の意見交換ののち、この問題についてさらに情報を集め、具体的提言に向けて文案を作っていく作業の必要性が指摘され、次回の分科会会議で引き続き議論することとなった。

同様に上記の分科会幹事会の議論を紹介する形で、対アジア関係、アジア地域における相互理解・歴史認識をめぐる取り組みの可能性につき、栗田委員から問題提起があった。対アジア関係についての緩やかな討論の場を本分科会が中心となって作っていく可能性（シンポジウム開催等）が指摘され、次回の分科会会議の際にさらに具体的案を提示して引き続き議論することになった。

12月15日（土）に東洋学・アジア研究連絡協議会および本分科会の共催で行われるシンポジウム「近未来の東洋学・アジア研究——ことばの重みを受けとめ、その壁を越えて」について斎藤委員から内容紹介・趣旨説明があった。

- （3） ユネスコ「世界の記憶」関連の諸問題について検討した。

ユネスコ「世界の記憶」関連の諸問題に関し、芳賀委員より「国際機関における文化事業等について」と題して、パワーポイント等を用いた約1時間の報告が行われ、ユネスコの歴史や「世界の記憶」制度の沿革・趣旨、これまでの成果、選考過程の課題や、歴史学と倫理の問題等についての問題提起がなされた。次回以降、さらに意見交換を行なうことになった。

- （4） その他

次回分科会は12月15日（日）の上記シンポジウム当日の昼に開催する方向で調整することとなった。